

2016 年 2 月 22 日

## 第 11 回「児童教育実践についての研究助成」助成対象決定

博報財団(公益財団法人 博報児童教育振興会)は、第 11 回「児童教育実践についての研究助成」の助成対象を決定し、本日発表いたしましたのでお知らせいたします。

### ■ 当事業の目的

すぐれた教育実践を生み出すためには、そのバックグラウンドとなる研究の深化・拡大が必要です。

この事業は、ことばの教育と児童教育実践の質を向上させる、新しい視点を持つ研究を助成し、その成果が教育の現場に反映され、児童教育の基盤を充実させることを目的としています。

### ■ 審査結果

審査委員会による厳正な審査の結果、応募総数 142 件のうち、16 件の研究を助成対象として選出しました。

(詳細は「助成対象一覧」をご参照ください)

### ■ 今後の予定

2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日の 1 年間、研究助成を行います。

終了後、助成対象者には研究成果報告書を提出していただくとともに、研究成果発表会で発表していただきます。また、助成対象者が希望する場合は、継続助成の申請をすることができます。

博報財団(正式名称:公益財団法人博報児童教育振興会)は、1970年に設立された財団法人博報児童教育振興会を母体として公益認定され、2011年4月に公益財団法人としてスタートしました。  
次代を担う子どもたちの豊かな人間性の育成のために、児童教育の実践者を顕彰する「博報賞」をはじめ、「児童教育実践についての研究助成」「国際日本研究フェローシップ」「世界の子ども日本語ネットワーク推進」など、「ことば」「文化」の領域を中心に児童教育の支援につながる4つの事業を行っています。

◇ 公式ホームページ <http://www.hakuhodo.co.jp/foundation/> ◇

### ■ 本件に関するお問い合わせ先:

公益財団法人 博報児童教育振興会  
研究助成担当:内藤  
TEL. 03-5570-5008 / FAX. 03-5570-5016  
E-mail. [hakuho.foundation@hakuhodo.co.jp](mailto:hakuho.foundation@hakuhodo.co.jp)

## 第 11 回 児童教育実践についての研究助成 助成対象一覧

助成対象研究(代表)者 (五十音順、敬称略)	研究タイトル (※はグループ研究)
芦田 祐佳(あしだ ゆか) 東京大学大学院教育学研究科 大学院生	低学年児童の情動表出に対する教師の認知的評価に関する検討
石島 照代(いしじま てるよ) 東京大学大学院教育学研究科 大学院生	ジェネリック・スキルとしてのライティング能力養成のための作文推敲指導法開発の検討 ―小中一貫校組織デザインを生かした、教科横断型の対話的な言語活動の観点から― ※
臼井 昭子(うすい しょうこ) 東北大学電気通信研究所 大学院生	美術鑑賞学習において言語活動を促進する ICT 教材に関する研究 ※
岡崎 善弘(おかざき よしひろ) 岡山大学大学院教育学研究科 助教	読書活動を促進する拡張現実技術の開発: 受動的読書から能動的読書へ ※
岡島 純子(おかじま じゅんこ) 獨協医科大学附属越谷病院子どものこころ診療センター 研究助手	不安症状を持つ自閉症スペクトラム障害児への認知行動療法 ※
小塩 靖崇(おじお やすたか) 東京大学大学院教育学研究科 大学院生	ウェアラブル加速度計と生活記録日誌の併用活用による睡眠教育プログラムの開発 ※
小野田 亮介(おのだ りょうすけ) 東京大学大学院教育学研究科 大学院生	聴き手に合わせた情報検索と情報提示を促す教育支援方法の検討
木澤 利英子(きざわ りえこ) 東京大学大学院教育学研究科 大学院生	日本人児童を対象としたシンセティック・フォニックスの多面的効果検証 ※
河本 愛子(こうもと あいこ) 東京大学大学院教育学研究科 大学院生	小学校における学校行事体験の有する発達の意義とその活動の在り方の心理学的検討
高木 潤野(たかぎ じゅんや) 長野大学社会福祉学部 准教授	日本語を母語とする場面緘黙児における言語能力の特徴―保護者記入型の質問紙検査を用いた検証― ※
辰巳 愛香(たつみ あいか) 大阪大学大学院連合小児発達学研究科 子どものこころの分子統御機構研究センター 特任助教	自閉症スペクトラム児の声の大きさ学習へのスマートデバイスの適応 ※
田中 千晶(たなか ちあき) 桜美林大学総合科学系 准教授	小学校における体育授業は活動的な時間となっているか? ※
樋口 大樹(ひぐち ひろき) 筑波大学大学院人間総合科学研究科 大学院生	漢字習得の脳内基盤―典型発達生徒と発達性読み書き障害生徒を対象として―
宮城 信(みやぎ しん) 富山大学人間発達科学部 准教授	児童・生徒の作文能力の経年変化の解明と現場と協働した指導法の開発 ※
山岡 武邦(やまおか たけくに) 愛媛県立北宇和高等学校 教諭	社会科学的な教育手法を適用した新しい科学技術教育プログラムの開発―認知的葛藤からはじめる児童と科学技術との対話活動―
山田 真寛(やまだ まさひろ) 京都大学学際融合教育研究推進センター 特任助教	地域言語学習コンテンツ制作・利用プロジェクトを核とした琉球諸語の復興研究 ※

〈所属・職名は助成決定時のもの〉